

## プロトンポンプ阻害薬 (PPI) の副反応

今回は P P I に関連した患者さんからの話が、たまたま二題続いたので話題に取り上げてみました。

### 1) “ピロリ菌除菌が成功した後で、胸やけが強くなった”と医師に 言ったら、除菌が成功したためだねと言われた。

ピロリ菌によって胃の壁細胞が障害を受けて、本来分泌すべき胃酸が出なくなる場合があります。ピロリ菌の除菌が成功してピロリ菌がいなくなると、胃の壁細胞が徐々に正常化され、本来の胃酸分泌が戻ってくる場合があります。そうすると、元々、胃酸の逆流傾向のある人にとってみると、除菌が成功することで、かえって胃酸が食道へ逆流しやすくなり、胸やけが出やすくなります。患者さんにとってみればピロリ菌が除菌されたのになんで？という話になるのですが・・・

これ以外にもピロリ菌除菌の副産物的な結果としては、食欲が改善して、食べ物も美味しく感じられるようになり、ついつい食べ過ぎて肥満になってしまったり、血清コレステロール値が上昇したりするという報告もありますので、除菌後の生活習慣にも注意しないといけません。

### 2) 1カ月前にパリエット®を服用開始したが、最近、舌が部分的 に白くなって痛みがでてきた。カンジダか何かでしょうか？

PASkaraNews(No16)の記事(早や7年前の記事になります)になりますが、ランソプラゾールの先発薬を長年に渡って服用していた患者さんの食道が白くなっていたので、その薬が中止になったという記事を書きました。

その時は発売元の医療情報提供者から、ランソプラゾールによる食道でのカンジダ報告例がある。また、カンジダ菌は胃酸の多い所には発生しにくいという話もあり、逆流性食道炎のために P P I を長期投与されていた患者さんの食道の胃酸環境が改善したために、カンジダ菌が増加しやすい環境ができてしまったのではないかという結論でした。

パリエット®でもやはり消化器系副作用としてカンジダおよび口内炎が 0.1%未満の頻度、舌炎が頻度不明として報告されています。

メーカーに確認した訳ではないですが、今回も以前のランソプラゾールと同様に胃酸環境の改善によりカンジダが住みやすい環境になった可能性があります。舌や口内カンジダにまでなるのかとも思いますが、食道あたりにできたカンジダが移動してきたのかもしれない。またプロトンポンプインヒビター自身の抗菌作用がありますから、それも関与しているのかもしれない(但し、かなり弱い抗菌作用なので菌交代症を引き起こしうるかどうかは不明です)。

■なお、P P I に関しては過去に NewsNo.89(平成 24 年 1 月)「鳥肌胃炎にピロリ除菌」の記事を書きましたが、当時は萎縮性胃炎への P P I 適応は認められていない時代で、私費扱いでした。今は「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎」という適応がついて保険が効くようになったのはご存じの通りだと思います。

以上